



各位

2019年3月19日
株式会社サイバー・コミュニケーションズ

**CCI・電通・電通デジタル・データアーティスト、AIを活用し、ソーシャルメディア向けの
広告クリエイティブの効果を配信前に予測するツール「MONALISA」を開発**

株式会社サイバー・コミュニケーションズ（本社：東京都中央区、代表取締役社長：新澤 明男、以下CCI）、株式会社電通（本社：東京都港区、社長：山本 敏博、以下電通）、株式会社電通デジタル（本社：東京都港区、代表取締役社長：鈴木 禎久、以下電通デジタル）、データアーティスト株式会社（本社：東京都港区、代表：山本 覚、以下データアーティスト）の4社は、ソーシャルメディア向けの広告クリエイティブの効果を配信前に予測するツール「MONALISA（モナリザ）」を開発、本日よりその運用を開始します。

ソーシャルメディア広告において、広告クリエイティブは広告効果を左右する重要な要素ですが、これまでではどのようなものが広告効果を発揮するのかについての事前測定手法がありませんでした。そこで電通グループは、AIに特化したグループ横断プロジェクトチーム「AI MIRAI（エーアイ・ミライ）※」の活動の一環として、過去の広告配信データと広告クリエイティブを分析し、広告の配信前に効果を事前に予測できるツール開発を推し進め、この度、MONALISAが誕生しました。

具体的には、広告クリエイティブの特徴を数値化し、広告配信結果に紐づけることで広告効果の機械学習を行いました。これにより、効果の低い広告クリエイティブを広告の配信前に検知することができ、配信時から既に検証済みの高精度な広告クリエイティブのみを優先的に選定し、配信することが可能になりました。

本ツールは、Instagram、Facebook、Twitterの3種類のソーシャルメディアへの動画・静止画の広告配信に対応しており、「動画再生完了率」と「CTR（Click Through Rate：クリック率）」を予測します。また、特定のダッシュボードの導入は不要で、メールもしくはビジネス向けチャットで利用できるという特徴があります。メールでは運用担当者が入稿すると、広告配信準備が整ったキャンペーンを自動で検知し、予測結果を送付する仕組みとなっています。ビジネス向けチャットでは、必要な配信情報と広告クリエイティブの送信後、数秒以内に予測値が通知されます。

今後も当社及び電通グループは、ソーシャルメディア向け広告の効果向上に向けて広告クリエイティブの制作・配信プロセスの高度化を推進してまいります。



■MONALISA のロゴマーク



※社内の各プロジェクトで開発・運用されている最先端の人工知能（AI）のノウハウと、これまで培ってきた社外とのネットワークを結集し、未来のビジネスに不可欠な要素であるAIの活用を社内外で推進する統括プロジェクトチーム。<https://aimirai.ai>

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社サイバー・コミュニケーションズ ビジネスプロモーション・ディビジョン

E-mail: taf@cci.co.jp

【リリースに関するお問い合わせ先】

株式会社サイバー・コミュニケーションズ ストラテジー・ディビジョン 小泉

E-mail: press@cci.co.jp